

ちば通研だより No.501

千葉県手話通訳問題研究会 (発行責任者) 米田 市子 (編集者) 渡辺 正夫
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<http://syuwa-chiba.la.coocan.jp>

「安否確認訓練をすることの再確認を」 ～自分の命を守ることから～

今年1月に起きた能登半島地震、また、8月には南海トラフ地震臨時情報が気象庁から初めて発表されました。大雨による洪水・土砂崩れなど多くの災害が起きました。

ちば通研の安否確認訓練を始めたきっかけは、東日本大震災で被災された宮城県から庄子陽子さんをちば通研講座の講師にお招きしたときのお話でした。

それを受けて安否確認訓練を2014年度から実施しました。また、毎月送られてくるちば通研だよりの封筒の裏に地震の際に連絡できる用紙を印刷しました。

安否確認訓練の目的は、「ちば通研会員の災害時における安否確認訓練を行い、防災についての意識を高めるとともに訓練を行うことで災害時に活かす」ことにあります。

日頃から心掛けてほしいことは、「何かあったら自分から班長などに連絡を入れる」ことに尽きます。これをいつも意識していただきたいと考えています。というのは、災害はいつどんなときに起きるか分からないからです。また、通信環境も使えなくなることが想定されます。そのため、普段からその際に自分はどうすべきなのかを考えておくことが大切だと考えています。

安否確認訓練の実施については、連絡や報告の方法などまだまだ改善の余地があります。今後も検討を重ねていきたいと考えております。

何より大事なことは、「自分の命を守る」行動です。このことを忘れずに！

(組織部長 野島 晃)



11月26日時点でのちば通研の会員数は325人

(読者会員会員数は15人)

2024年度の目標数は330人です

数は力！みんなで会員を増やしましょう～

全通研創立50周年記念 シンボルマーク
愛称は「ふいーる(feel)」です。可愛がってね。

地区講座（南総）報告

2024年10月27日（日）、13時から15時30分まで、市原市五井公民館にて「ちば通研地区講座（南総）」が開催されました。参加者は会場31人、オンライン20人の計51人でした。



講師に川根紀夫氏を迎え「聴覚障害者の暮らしと手話言語条例について」をテーマに講演していただきました。手話言語条例の必要性を理解する前に「憲法」「法律」「条令」とは何なのかという事から丁寧に説明していただき、これから私たちが取り組んでいく為に必要なことを時に笑いも含めながらお話いただきました。

休憩時には健康対策班長の指導の下、ストレッチで体をほぐし、リラックスしました。

条令制定に向けての取り組みの意味を感じながら「学習の秋」を満喫した1日となりました。

（労働班長 粉 純子）

（労働班長 粉 純子）

地区講座（南総）に参加して

川根紀夫氏のお人柄により和やかな雰囲気の中、講座は行われました。憲法・法律の役割、責務について丁寧に説明されました。

手話言語条例の制定は、憲法の意志・障害者の権利に関する条例の精神が生きた、ろう者の暮らしの実現に向けたスタートラインに立つと言う事であり、ろう者を中心でできるだけ大勢の人で運動を作り理解者を増やす事が必要であると教えていただきました。



私たちも条例制定実現に向け一歩踏み出せたのではないかと感じました。

（市原班 石塚 照乃）

【データ配信している皆さまへ】

データ配信にご協力いただきましてありがとうございます。

データ配信希望者の皆さまには、下記の内容などをサポーターズ印刷日の次の日にちば通研ホームページの「トピックス」「会員専用ページ」に掲載します。

- 1 「ちば通研だより」「地区講座」など → 会員専用ページ 「広報」「学習」
- 2 「このゆびとまれ」「らいおんぐるーぷ」 → 会員専用ページ 「情報」
- 3 「房総（ふさ）」 → 千葉聴覚障害者センターホームページ 右端下
- 4 「全通研 NEWS」「読みたい見たい」など → 全通研ホームページ 毎月20日過ぎ

※全通研 NOW は、その都度更新されますので、見る習慣をつけてください。

よろしくお願ひします。

ちば通研講座Ⅱ 報告

11月3日(日)、14時から、松戸市健康福祉会館ふれあい22、3階障害者福祉センター研修室を配信会場にして、ちば通研講座Ⅱを開催しました。参加者は会場39人(会員33人、ろう者4人、一般2人)、個人視聴は会員14人、集団視聴(かずさ班)は会員8人の計61人でした。

講師には、びわこリハビリテーション専門職大学教授 埜田和史氏をお招きして「健康にはたらくために」をテーマに、ご講演いただきました。先生は、手話通訳者の職業病、頸肩腕障害を発見し、手話通訳者の健康管理制度の構築に貢献。その保健衛生の向上の取り組みに対して、第71回「保健文化賞」を受賞されました。

当日の資料には、1980年代頃からの、手話通訳者の健康問題等に関し具体的な数値や経過報告の記録があり、深く理解することができました。講義の中で、腕は片腕で5kg、両腕を引き上げ、顔と腕を同じ画面にし長時間動かし続けることが原因であり、「聞き取り」「読み取り」、異なる通訳を同時に行うことの緊張・ストレスから、精神面の不調は思う以上に大きいと伺いました。メンタル面、フィジカル面、楽しいと感じる時間が大切で、遊びを取り入れストレスと上手に付き合っていくことが大事です。

1 休憩や休息が適切にとれているか？ 2 働く環境を整備しているか？ 3 ストレッチ体操や体力づくりに取り組んでいるか？ 4 手話通訳者等の心身の負担軽減や健康管理の方法を繰り返し学習しているか？ 5 検診によって自身の健康状態を把握し、健康状態に応じた働き方を心掛けているか？ 毎年(随時)チェックし、日頃から、この5つを常に心がけていきましょう。埜田先生、ありがとうございました。(組織部 鶴澤 恵子)

ちば通研講座Ⅱに参加して

手話通訳者が安心して働くため、頸肩腕障害の正しい理解と応援を！ 通訳活動が少なくても、頸腕になる。ケイワンがつないでくれたものの始まりと失われた過去と未来。頸肩腕障害になってわかった事などをまとめた冊子があることを知った。埜田講師の分かりやすい話し方に吸い込まれて、あっという間の時間でした。

私が手話と関わる以前から、手話通訳者の健康問題に取り組み、長い歴史の中でも治療方法の確立がなく、今日に至っている現状や全国の通研のみなさんが奮闘した調査結果が社会に認められたわけでもなく、不確かな中での運動を通して、誰が健康を守っていくのか？ 社会へ福祉制度の充実・手話通訳者の必要性と並行して、健康問題は切っても切り離せないものと再認識させられた講演でした。(松戸班 小瀬田 正子)

講座前日に45ページもの資料が届き、しっかりと事前学習。初めての生埜田先生。特等席(最前列)で学べた。健康問題の歴史、ケース事例と経緯、第24回青森集会での健康診断の様子や手話通訳者に頸肩腕障害が多発した理由等々を伺った。

札幌市嘱託員が公務災害を申請してから45年。未だに頸肩腕障害の治療法は確立されていないようだ。埜田先生は、こうおっしゃった。「今、発症していない我々は、たまたまの生き残りだけ。これからも通訳業務を行うためには、予防が大事！ メンタルやフィジカルを健康に保つために遊びを大いに楽しもう！ 遊びすぎて何が悪い！ 楽しむ気持ちがなくなったらおしまいだよ」とのお言葉が印象的であった。いつまでも仲間と健康的に活動を継続できたら良いなと思った。

(習志野班 阿部 恵子)

関東通研 20周年記念事業報告

10月9日（土）13:30～16:30 山梨市民会館において関東通研20周年記念講演会が行われました。

日本手話通訳士協会の前会長で、山梨の小椋英子さんによる講演では、高校生で手話サークルに入った頃のお話から、「分からない人に分かるように伝える」語る力の必要性を語られ、自分自身が理解していなければ語れないことを再認識しました。



後半は、関東の歴代会長経験者や渡辺会長によるパネルディスカッションがありました。関東通研での体験談や、今は亡き市川さんや、伊東先生、相川さんの思い出などを語っていただき、「あ～、そういう事もあったなあ」と懐かしく思ったり、初めて知る話など、あっという間の時間でした。皆さん口を揃えて仰る「関東の仲間は優しく、支え合っていた」の言葉は印象深く、嬉しい気持ちになりました。また、東京は昔から立派な事務所を持っていたこと。石川さんから事務所を持った意外なからくりを聞き、驚きと笑いをもらい、皆さんの語る力には脱帽です。

夕方、駅前の「歩成本店」にて、情報交換会は一度座ったら立ち上がれないくらいの密度の中、美味しい料理とお酒を肴に交流を楽しみました。関ブロ恒例の支部対抗戦では一発芸を披露し優勝。一躍有名になった次第です。

余談ですが、私が疑問だった20周年とは、関東ブロックから関東通研になっての20年でした。
(保育・子育て支援班長 渡辺 裕美)

第38回関東手話通訳問題研究討論集会 in 山梨報告

私は、第5分科会「手話通訳の健康」に参加者しました。参加者12人（千葉5人）でした。司会は千葉が担当で習志野市の阿部さんが担ってくださいました。

討議の柱は手話通訳者頸肩腕原因を洗いだそうパートⅡ～その後の取り組み～について討議しました。

全日本ろうあ連盟、全国手話通訳問題研究会、日本手話通訳士協会で作成された「手話通訳者のためのチェックシートの活用について」、次回の集会まで検討してくることにしました。

山梨市の方からストレッチ（健康体操）を365歩のマーチ（水前寺清子氏）の曲に合わせた体操を教えてください元氣になりました。

全通研の健康対策担当の桐原さんの助言もいただきながら有意義な討議ができました。

そして、びわこリハビリテーション専門職大学 埜田教授が話されている ☆毎日楽しい ☆美味しく食べられる ☆眠れる の3つが健康な状態である事を参加者全員で確認いたしました。



第5分科会のお部屋は背もたれのついた素敵なイスで円形になって話ができました。景色もよく、ゆったりとした気分です討議ができましたことに感謝しています。

(健康対策班長 平野 百合子)

山梨に参加して

久しぶりの関東手話通訳問題研究討論集会 in 山梨は、仕事として参加しましたが、ワクワクが止まらない2日間でした。

第1分科会の「手話通訳制度」では、他県も設置通訳者の担い手不足が課題になっていました。「正職員化しても設置通訳者にはならない」と若者の意見もあり、悲しい気持ちになったりもしました。大変なイメージで伝わっているのですね。設置通訳者の魅力をどうしたら伝えられるのか？ が今後の課題です。交流会ではお酒も入り、手話での語りが楽しくて、最高でしたよ～。次回は、京都の夏集会。ワクワクが止まらない第2章、そんな夏にしたいものです。

(千葉市班 傳田 幸恵)

関東通研 支部代表者連絡会議報告

11月24日(日)、10時から11時35分まで関東の支部代表者連絡会議がオンラインで開催されました。参加者は、本部3人、支部代表者14人の全部で17人でした。

初めに、11月9日(土)20周年記念事業、10日(日)手話通訳問題研究討論集会 in 山梨の内容と感想などが話されました。

記念事業では、伊東雋祐氏や市川恵美子氏のことを知らない参加者もいました。また、久しぶりに情報交換会が楽しく開催できたとのことでした。また、討論集会では、ろう者の参加もあり活発に意見交換がなされたとの報告がありました。

その後、7月3日(水)の最高裁判決の際の本部からの助成金については関東通研の会計で処理することにしました。各支部で計画している学習会の他支部からの参加について話し合われました。支部会員を優先して企画しているので、他支部の人が参加することで会員が参加できない状況は避けたいなどの意見が出されました。これについては、再度、支部内で協議することにしました。

最後に支部から行事について報告され、無事に終了しました。

(広報部長 渡辺 正夫)

「全国手話研修センターを学ぼう」に参加して

私は、全国手話研修センターのことを何も知りませんでした。手話通訳者養成講座の教材や全国手話検定試験の本に全国手話研修センターの名前が載っていたと思っただけです。

今回のお話を聞いて、新しい手話を創作して普及させる大変さが伝わってきました。手話通訳者全国统一試験を受験する人たちの年齢が上がっていることに驚きました。

全国手話研修センターで全国统一試験問題を作り、合否結果も全てセンターで行うのが大変だと思いました。最近では、手話ドラマなどが流行っている事もあり、手話検定試験を受ける人たちが増え、手話の魅力がもっと若い人たちに届いて欲しいと思いました。京都の「コミュニティ嵯峨野」では宿泊施設もあるので、宿泊してみたいと思いました。

(千葉市 麻生 美穂)

「ろう重複者とともに よしえが語る！」 Vol.9

「地域活動支援センターらいおん香取」

「らいおん香取」は、2012（平成24）年4月に香取市にオープンしました。JR佐原駅北口から徒歩7分のところにあります。

ろう高齢者、ろう重複障害者等、きこえない人達が安心してコミュニケーションができる場であり、「生きがい」につながる支援を行っています。

「らいおん香取」は、東総ブロック内、香取市を中心に仲間が集まっています。「らいおん香取」として誕生する前にも、「だるまの会」でミニデイサービスを開催し、地域の仲間との交流をしてきました。

各自制作された品物は、これまでの経験が生かされた素敵な品物になっております。物づくりのための発想力は今もバツグンです！

- ① ミニぞうりのストラップ（本物のい草で制作。い草は近所の畳屋さんのご寄付）
- ② 2つファスナー財布（上下にファスナー付き、なんとも便利なお財布）
- ③ 毛糸ミニ編み（昔とった杵柄??視覚障害のある方が、手探りでカエル、ケーキ、ぶどう、お地藏さまなど1つひとつ丁寧に制作）

新芽まつりや秋穫祭でも販売していますので、お持ちの方もいらっしゃると思います。7月に開催された佐原大祭夏祭りにも出店、大変好評だったそうです。

「だるまの会」はみなさん、ご存じですか？

他県に比べて早い時期から「手話のできるヘルパー」の養成を目指して、ヘルパー養成講座が開催されました。

修了後、ともに学んだ仲間が集まって「だるまの会」が結成されました。

県内各地でミニデイサービスを開いて大変喜ばれてきました。

私はヘルパーではありませんが、手話通訳者として「だるまの会」の会員に入っています。久しぶりに今年の県協会主催の長寿を祝う会をお手伝いしました。

平成19年に始まった千葉聴覚障害者センター事業の「手話のできる介護ヘルパー派遣」は、今やきこえない人達の暮らしに欠かせないものとなっています。聴覚障害のある利用者はもちろん、家族にとっても、手話でコミュニケーションができることは、介護を安心してよりスムーズに受けられることにつながります。

各自自宅での生活支援、今後のらいおんコミュニティや行事の中でも、とても大事な役割を担っています。手話のできるヘルパーによる介護支援はお互いが心を通わせ、十分に理解ができ、元気に生活していく大切な力です。

毎月発行の「らいおんぐるーぷ」機関紙には、らいおん香取の活動予定も掲載されていますのでご覧ください。

（飯泉 よし江）

次回に続く⇒

特集 全通研創立50周年記念 ちば通研版 「全通研とわたし」

VOL. 12

「未来へバトンを繋いでいこう！ 仲間と共に！」

会長 米田 市子

【手話との出会い】

1986年、出産のため成田赤十字病院に通院していた頃、診察室のカーテン越しにひらひらと動く手が見えました。「え？ あれは何？ もしかして手話？」 主治医と聞こえない女性らしき方が手話で話していました。そのことが脳裏に焼き付いたまま、子育てが少し落ち着いた頃に手話講習会を受講し、手話サークルに入会しました。そこであの時の医師、ちば通研の医療班長をされていた坂本建彦先生に再会しました。手話はともかく（先生ごめんなさい）ニコニコと人懐っこいその人柄は、聞こえない人々に安心感を与え、医師としての信頼も厚く、私にとっても手話に出会うきっかけとなった方でした。

【全通研との出会い】

手話通訳者を目指しながら先が見えない1999年頃だったと思います。手話の技術だけでなく全通研に入って『聞こえない人の暮らしから多くの学びを』と勧められて入会。その頃は支部だよりや研究誌をたまに開くだけの幽霊会員でしたが、2008年7月一念発起して、坂本先生や仲間と共に成田班を結成しました。気がつけば今年16年目、班員の変動はありますが、みんなが順番に班長を経験し、地域班会議に参加することで、ちば通研の組織や活動を身近に学ぶことができます。

転機が訪れたのは2013年、健康対策部長（現在の健康対策班）としてちば通研の役員にと声をかけられました。その頃仲間が頸肩腕障害で体調を崩してしまいました。この病気のことを正しく知り仲間に寄り添いたいと願う仲間と共に、予防のためのストレッチを学び普及活動に取り組みました。その頃から仲間と一緒に冬の集会やサマーフォーラムに参加し、大阪、福島、沖縄、広島、三重などへ、また健康の研修会にも参加するようになり全通研が一気に身近になっていきました。

【仲間とともに乗り越えて】

2019年7月七夕の夜、坂本会長は、突然天に召されてしまいました。その冬コロナウイルス感染症が世界中に蔓延して社会活動がストップし、東京オリンピックが翌年に延期となり、世の中が暗い雰囲気包まれた、そんなタイミングで会長を引き継ぐことになり目の前が真っ暗になりました。それでもただでは転ばないのが「ちば通研」 仲間の知恵を結集してICT技術を研究しオンライン講座を開催し、通研だよりも工夫しながら発行しました。その後も多くの課題を抱えながら、何とか仲間と共に乗り越えてこられました。いつも遠くからそっと見守ってくれる仲間にも支えられてきました。

毎年代議員会や支部長会議に参加するたびに、全国の仲間の姿に励まされパワーをもらっています。同じ山を目指しながらも登り方には何通りもあるのだと教えられました。意見の違いがあっても当然、議論を重ね多様な考え方を認め合いながら社会を変えていくのだと。だから、未来へバトンを繋いでいこう！ 誰もが大切にされる社会を目指して！

最終回です。12人の方にご協力いただきました。ありがとうございました。【広報部】

医療班コーナー



『怖い たんこぶ Ⅲ』

≪病床でのこぼれ話≫

ここで体験談を終わろうと思ったのですが・・・
ある方にメールをしたらお腹を抱えて大笑いしたとか？！

救急室から3日目は一般病棟（4人部屋）に移動しました。

昔は、大部屋は夜しかカーテン閉めなかったですよ。日中は開け放し、お互いの病状を言い合い、慰められたものです。今は、プライバシー保護の観点からか一日中閉めっぱなし。どんな方が入院されてるのかわからないのです。

私の隣のおばあさん。ここが病院とわからないご様子。「A子さ～ん、A子さ～ん」と呼び続けてます。返事をしないと段々と大声に、仕方なく「はい。何か御用ですか？」と聞くと「A子さん、お昼ご飯まだなの。早く食べさせて！」とおっしゃる。

A子の私「まだ時間にならないので後で用意しますね。」と返事。

「まあ あんた。いつからそんなに冷たくなったの！」とのたまう。

夜になると「おしっこが出る～。早くトイレに連れて行って。」と叫ぶ。

そこでA子は、「オムツしてるのだからトイレに行かなくても大丈夫」と返事。

「あら、出ちゃった！」その度に看護師を呼ぶ。夜中の呼び鈴担当。

この病室の人、殆ど眠れない。さすがに翌日この部屋から脱出できた。

次の病室では、時々すすり泣きの声が聞こえる。看護師さんは走り回り、気にも留めない。私は持ち前のお節介なのか、いやいや聞こえない人の声を拾う習性なのか・・・
「どうしました？」とカーテンを開け、声掛けしました。

私よりもずーっと若い人でしたが、頭に大きな手術の跡があり、言語障害もおありでした。先ほどは優しいご主人の声も聞こえてました。なんと声掛けをするか迷いましたが「あなたはお若い。優しいご主人と一緒にリハビリすれば大丈夫。前に進んで下さいね。」翌日リハビリ病院に転院されましたが、とても穏やかな顔で頭を下げて行かれました。

暇を持て余したと言えそうかもしれませんがね。人間観察は通訳者の特技？！
時間がゆっくり流れた病院生活でしたが、なかなか面白い非日常を経験できました。

それにしても看護師さん、とてもお忙しい。今までと違う観点から尊敬しますね。
(千葉市班 田村 貴子)

今回は田村さんから貴重な体験を寄稿していただきました。

慢性硬膜下血腫は、頭を強く打つなどの原因で、「硬膜」と「くも膜」の間にじわじわと出血して、一か月以上かけて血の塊ができる病気です。高齢者やアルコールを多く飲む人、血液がサラサラになる薬を飲んでいる人などで起こりやすい病気です。

高齢者が後頭部を打った場合は、手足の痺れや言葉が出にくいなど、気になる症状が出てきたらすぐに病院に行きましょう。診断は頭部CT検査にて行うことが一般的です。(医療班)

～TMG～

TMG（楽しく（T）未来社会（M）学習班（G））のページ



TMG(楽しく未来社会学習班)の目指してるところは何？と思われている方が多いかと思うのでTMGの紹介を改めて行いたいと思います。

TMGの前身は通訳班でした。ただ、ちば通研同様名前からして通訳者だけ対象の班と間違われやすかったです。

ちば通研は誰でもが入れる組織である以上誰でもが入れる班です。なので、その当時班員だったみんなに改名のアイデアを貰い、それをつないだらTMGとなりました。

そしてその目的とは、聞こえない人たちが自由に生きられる社会を作る為の具体的方法を探していく事です。

以前（一度休止しました）は、聴覚障害とは何か？を研究してました。そして判った事は、自然に入手できる、人が生まれてから今に至るまでの時間経過時に周りで起こっている様々な情報を基にした判断が得られにくい。という事です。（次回へ続く）

（楽しく未来社会学習班長 田村 文美）

全通研創立 50 周年記念式典 シンボルマーク 表彰される

10月5日(土)に開催された全通研創立50周年記念式典において、功労者の一人として「ふい～る」の産みの親である千葉支部の高橋みづほさんが表彰されました。

みづほさん、おめでとう！そして、ありがとう！！



【高橋みづほさんの言葉】
ありがとうございます。
ます。

表彰していただき、とても幸せです。そして、いつもご尽力なさっている皆様に感謝し、これは千葉支部の皆さんと一緒に頂いた賞だと思っています。

これからも「ふい～る」をよろしくお願いいたします。

表彰状

千葉支部 高橋みづほ様
あなたの作品は本会創立50周年記念事業シンボルマークに採用され本記念事業の成功ならびに本会の発展のために多大なる貢献をされました
その功績は誠に顕著でありここに表彰いたします

令和六年十月五日

一般社団法人全国手話通訳問題研究会

会長 渡辺正夫




（副会長 高橋 悦子）

私のイチオシ


…市川班…

急に寒くなりました。日本人の冬の定番は「鍋」ですね。皆様の家庭ごとに様々な「鍋」を楽しまれていると思います。今回の「私のイチオシ」は市川班が「おでん」についてご紹介いたします。




 わたしのおでんのイチオシは「里芋」です。

おでんの具「いも」の定番はジャガイモらしいのですが、うちではもの心ついたころから「里芋」、ちょっと贅沢すれば「セレベス」が美味しい。里芋のねっとり感にからしが絡み合いとても絶妙なマリアージュ。日本酒のあてにも ピツタリ。ぜひお試しください。

 おでんの具材、私のイチオシは「牛すじ」です。

では、我が家のおでんの作り方コーナーに移ります。

美味しい牛すじを食べるためには労を惜しんではなりません。煮込む前の下処理が大事です。前日、適度な大きさに切って一度茹でこぼします。続いて茹でること20～30分。冬はそのまま鍋ごと外気に放置。翌朝、固まった脂肪を漉しとります。茹で汁に味付けをし、分厚く切った大根と蒟蒻、そして牛すじを圧力鍋で煮ます。牛すじがトローンとなったら、厚揚げ、ゆで卵、練り物を投入。しばし煮込んで出来上がり。さ、召し上がれ。

 おでんの美味しい季節になりましたね。

私がおでんと出会ったのは社会人になってからです。え～とお思いでしょうが、実家にいる頃は「おでん」というおしゃれな食べ物はなく「煮物」でした。所変われば品変わるで、全国にはいろいろな「おでん」がありますよね。皆さんの「おでん」の中身は何ですか？

我家の「おでん」は大根、こんにゃく、ゆで卵、がんもどき、練製品など一般的なものです。寒い日は、温かい「おでん」で身も心も温まりましょう。

地域班通信

富里班：手話サークルに通いはじめから数年、最近は小学生から年齢層も幅が広く会員数も増えています。私も初心に戻りイベントにも参加して楽しもうと思います。(K)

六つ星班：前号の「ちば通研だより」を読んで、40数年の皆様の歩みに刺激を受けました。共に支え合って続けられてきた活動や情報の提供が皆様の力になっている事も(^)たくさんバトンを繋いできていただいた会員の一人として協力できたらと思います。なにより「ちば通研だより」を笑顔で読める日常でありますように。

船橋班：東京証券取引所を紹介する番組を見ました。今は電子化されていますが、1999年まで大勢の人が手のサインで取引を行っていたといいます。企業名を表す際は、カタカナで「ト」を空書き+ハンドルを握る仕草で「トヨタ自動車」、中指～小指の3指で頭の上を越えて「三越」など、何となく手話っぽい。では問題です。片手で投げキスはどこの会社でしょう?... 答えは「伊藤忠(チュー)商事」でした。(Y・O)

印西班：知っているのと役に立つ豆知識です。先日、空き巣の被害にあい、家が荒らされました。幸い、火災保険の盗難補償で一部補填されました。必要書類は現場の写真と被害届です。被害届の提出期限というのは、ありません。被害者は、後からでも被害届を出すことができます。もし万が一、被害に遭っても、泣き寝入りしないで下さい。(I)

わかしお班：文化祭のクラブ発表で、毎年手話コーラスをします。会場は、いつも70歳以上が多そうなので、朝ドラ主題歌や高齢者でも知ってる曲を選びます。今年は、ろう者の手話指導を入れ、会場のみなさんと「しあわせなら手をたたこう」の手話コーラスをしました。手をたたいたり、足を踏み鳴らしたり、会場との一体感を感じ、楽しい発表になりました。(K)

海匠地域班：11月3日、埜田先生の講座に参加しました。頸肩腕障害で、とても辛い状況になる方もいると伺い、悲しくて涙が出ました。自分のために、自分を大切に、大事な人たちを考え、無理せず、話し合いをもって、長く長く通訳活動が継続できるように願わずにはいられません。どうか、よろしく願いいたします。

白井班：先日、学童に通っている孫を迎えに行った時、ちょうどおやつを食べながら支援員さんのお話を聞いているところでした。竜巻注意報が出たらどう行動するかという内容。竜巻まで想定して身を守る術を教えてくださいなんて。孫は一生懸命竜巻の回避方法を話してくれました。家にいた場合どうしたら良いかなど災害について話し合う事ができました。

市原班：南総のアクアマリンマラソン応援、募金活動にハーフのゴール地点の近くで参加しました。ランナーが立ち止まりデフリンピックポスターと一緒に自撮りする方や「ねじりハチマキ」のポーズで返してくれる方などがいて、とても楽しい時間を過ごしました。デフリンピックがもっと周知されるように頑張りましょう。

市川班：皆さん東日本大震災発生時どこで何をされてましたか？ 10月に現県サ連会長の外口氏を講師にお招きし、地区講座「図上訓練マイタイムライン」を行いました。平日の午後3時を想定、白地図を利用して危険な場所や避難場所、避難所での行動をグループで話し合いました。なかでも特に日頃の備え、「自助」の重要性を学んだ半日でした。

千葉市班：ふらっと本屋に立ち寄り、何気なく手に取った本を買うのも好きですが、私は断然電子書籍派です。置き場所に困らないのもそうですが、とにかくどこにいてもすぐ買って読めるのが魅力。つついポチッとしてしまいます。好きな本は手元に置いておきたい人もいますよね。それもしかり。皆さんは紙派ですか？ それともデジタル派ですか？

鎌ヶ谷班：2024年を振り返りユーキャンの新語・流行語に、早くも30の言葉がノミネート。その中で私が興味をもった言葉は・・・はて？ 裏金問題、ブレイキン、被団協、50-50、初老ジャパン、令和の米騒動等々です。因みに昨年は「アレARE」です。さて、今年は何に決まるでしょうね。発表は何時かしら!! (T.T)

かずさ班：あれ？ 最近あの人と会ってないな。高齢だしな。どうしているかな？・・・かずさ班では、そんな想いを解消すべく、地域のろうあ協会の方たちと「ろう高齢者を囲んでクリスマス集い」を企画中。福祉カーで送迎しておにぎり、豚汁等作って、交流会・・・夢は広がり、12月1日(日)実現されますよ!(J)

成田班：日暮れが早くなりました。若い頃は暮れていく空を見ているのが大好きで、秋の夜長を満喫していたのに、今は暮れていく空を見ているとなんだか物悲しく、寂しくなってきました。歳のせいかもしれませんね。でも今年こそ時間を無駄にせず、積読になっている手話の本を長い夜にじっくり読もうと思います。

八街班：10月、市協会設立25周年記念旅行に娘と一緒に参加しました。手話初体験の娘は2日間どっぷりと手話の環境下で過ごしました。聞こえない方から言葉のシャワーを浴びて、充実した2日間だったと喜んでいました。今後も手話に興味を持ってくれたら嬉しい、と思っています。

松戸班：巧妙で悪質な詐欺や、凶悪な強盗事件が頻発しています。「防犯」をテーマに自分の体験を出し合いました。怪しいメール、偽サイト、訪問詐欺やオレオレ詐欺等。AIが進化し、アプリやメール機能で暮らしが便利になった反面、自分の暮らしを守るためにも、どんな手口が横行しているか知ることが大切です。(M・H・K)

習志野班：季節感がない今年の秋ですが、それでも街頭の木々たちは元気に色づき始めています。以前は食欲の秋と思っていましたが、今年は一年中食欲の秋のようでした(汗)スポーツは夏からさぼったままで体は正直です(汗)お正月はどうなるか・・・皆様良いお年を!!

役員短報

日時：11月3日（日） 役員会
 会場：松戸健康福祉会館（ふれあい22）
 参加者：14人

<主な議題>

○三役

- ・秋穫祭の内容及び担当者について
ちば通研としては、書籍販売、バザーを出店する。前日に品物を会場に保管。サポーターズに協力を依頼。

○広報部

- ・12月号掲載記事の確認。
- ・データ配信希望者79人になる。より多くの協力者を募る。
- ・4月号の発送及び議案書の印刷の予定を決定。発送は4月7日（月）とする。

○組織部

- ・会員拡大 323人（10月31日現在）
- ・ちば通研講座Ⅱの役員の担当について確認。
- ・地区講座の手話通訳者については、できるだけ地域班の協力を得る。
- ・北総（白井班）、東総（八街班）、中央（千葉市班）の地区講座が1月から開催される。
- ・4月のちば通研講座の講師を南村洋子先生に依頼する。
- ・総会及び役員改選について、12月1日の地域班会議（地区別会議）にて協議する。

<部・班の報告>

○三役から

- ・10月5日（土）、全通研創立50周年記念式典・祝賀会の報告。
- ・10月6日（日）、臨時代議員会の報告。
両日とも米田会長、折原事務局長、野島組織部長の3人が参加。

○広報部

- ・サポーターズのメンバーを募集している。関心のある方は事務局に連絡を。

ON-Action ちば

- ・10月5日（土）、学習会開催。2人。
- 楽しく未来社会学習班（土）
 - ・11月24日（日）、千葉市中央コミュニティセンターで学習会開催。
 - ・12月22日（日）、東金市ふれあいセンターでの川根紀夫氏の講演・議論。
- 保育・子育て支援班・ろう教育班
 - ・なかまの集い
11月24日（日）、10:00-12:00
千葉聾学校体育館（デフラグビー）
参加費500円（当日徴収）
参加希望者は、事務局に連絡。
- 労働班
 - ・11月17日（日）、10:00-12:00
千葉市中央コミュニティセンター
- 事務局
 - ・中間監査を12月に実施。
- 後援会
 - ・11月10日（日）、10:00-15:00
秋穫祭 千葉聴覚障害者センター
たくさんの来場をお願いする。
- 関東手話通訳問題研究会
 - ・11月9日（土）、10日（日）
20周年記念、交流会、集会
 - ・11月24日（日） 13:00-15:00
「全国手話研修センターを学ぼう」
黒崎信幸理事長 オンラインで開催。
- ICT ちば
 - ・総会の委任状などの申込フォームを検討中。

今後の予定

- 12月1日（日） 地域班会議・役員会
- 12月21日（土） 組織部会議
- 12月22日（日） TMG 班学習会
医療班学習会
- 12月24日（火） 広報部会議
- 12月27日（金） サポーターズ印刷日

お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス
アドレスは以下のとおりです。

<http://syuwa-chiba.la.cocacn.jp>

QRコードでホームページに
アクセスできます。

会員専用ページは
パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ
ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail: syuwa@nifty.com

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本名
もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は12月15日(日)です。

E-Mail: c-koho@c2ken.sakura.ne.jp

FAX: 043-247-1201(早朝・深夜は不可)

会費の納入のお願い

2024年度の会費納入をお願いしています。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は
以下のとおりです。なお、申し訳ありませんが
振込手数料はご負担ください。複数人まとめて
の納入は、全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円(聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号: 00120-4-708239

加入者名: 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回
まで無料です。

けいわん110番

<医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座(衛生学)

TEL: 077-548-2187

FAX: 077-548-2189

<仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX: 057-451-3281

*何かありましたら、いつでも、ちば通研健
康対策班に、ご相談ください。

FAX: 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練
をしています。最近、災害はいつ起きてもお
かしくない状況です。そのため、会員の安否確
認をよりスムーズにするため、専用のフォーム
を開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。

<https://forms.office.com/r/5bav1TCt53>



あ と が き

総武線での移動中ドアの上の TRAIN TV を
見ていたら、デフリンピックの広報が目
に飛び込んできました。来年の開幕まで1年
を切ったのですね。大会には70~80の国・
地域から選手等約6,000人が参加予定と
か。あちこちで手話の花が咲く光景が目
に浮かびます。ボランティアの募集も始
まりました。その募集人数は約3,000人！
来年が楽しみです。みんなで盛り上げて
いきましょう！(K)

「ぼくが生きてる、ふたつの世界」を
観ました。まず、字幕がついていない
事にショック！これでは聞こえない
人は気軽に地元の映画館で観られ
ません。印象に残った場面は医師
から病状を説明された時に主人公
は聞こえない母親に「大丈夫」の
一言。その手話に母親が声なき
声で号泣する。何を伝たらいいか、
母は何を知りたいのかをコーダ
だからこそ分かるんだと感動し
ました。(S)